

第2弾！日本語教育の進め方と選択基準は何か？ なぜ、受験者の「自学能力」がないのか？ 悩みに答える！！

- ※ 本号は前号に続けた第2弾として、【三位一体】のうち「教育指導力」について考えていく。そして、次号80号に続いて81号まで、【三位一体】を構成するそれぞれの役割と責任の範囲を提示していく。
- ※ 介護・看護ともに未だに合格率が低く、仮に合格した者がいても定着することなく帰国して、人材不足の解消策となっていないことが実情・実態だ。

- ※ この問題を解決するためには、受け入れ機関が着実に【三位一体】の考え方を理解した上で、人材確保計画を確立することが早急に必要だ。
- ※ 決して考えてはならないことは、EPA受験者を「使い捨て人材」として捉えて、在日3年間だけの人材確保しか考えないことだ。この考え方は、EPA制度の目的から全くかけ離れたものだ。

I、【どんな教育指導者なら、「自学能力」が身につくのか？】

- 表1は現在、日本語教育に携わっている「指導者の種類と、その能力」を表したものだ。「○印」は「能力あり」で、「△印」は「中程度の能力あり」で、「×印」は「能力がない」ことを示している。
- 特に5の「自治体の研修講師」は、職種の専門知識はあるが、日本語教育に対する技能は、身につけていない講師が大半だ。その結果、参加しても「教育効果が上がらない」との声が多いのが実態だ。

表1、指導者の種類	読解	口答	聴解	構文	日本語専門知識	数値化できる	職種専門知識
1、実践教授法の教師	○	○	○	○	○	○	△
2、自称日本語教師	△	×	△	×	△	×	×
3、ボランティアの教師	×	×	×	×	×	×	×
4、日本語学校の教師	△	△	△	×	△	×	×
5、自治体の研修講師	×	×	×	×	△	×	○
6、専門学校の教師	×	×	×	×	×	×	○
7、施設・病院の職員	×	×	×	×	×	×	○

- 表1の4・5・6の特徴は、多人数制の集合教育であり、「対面の一方向的に教える教育」が基本形態となっている。即ち、「聴解力」はある程度向上するが、受験者自らが話す機会がないために、「口答表現力」は、ほとんど向上しない。その結果、【聞くことはある程度理解できるが、話すことができない人間】を作り出すことになる。

- 1・2・3・7は、少人数教育の形態をとることが多い。しかしながら、「日本語教育指導法を習得していない者」の指導方法は、4・5・6の対応と同じことしかできないために、その教育効果は非常に低い。表1の「△印と×印」を「指導者の種類」に照らし合わせて考えると、その教育効果が想定できる。

II、【マークシート方式では、 本当の言語力が分からない】

- その理由は、選択肢の中から「正しいもの・正しくないもの」を抽出するだけで能力を評価するために、【受験者が理解できている能力を判断する試験方法ではない】ということが、最大の原因だ。
- 表2は、この方式の言語能力を表したもので、「構文力」を評価するものではないことが分かる。例えば、N2・N1に合格した者でも、「中文・長文」に限らず「短文」を書かせたり、口答表現させたりしても、それが正しくできない者が圧倒的に多い。これは「人間の言語能力」を評価する方式としては、不適切であることを表している。（表2参照）

III、【日本語力とは、何か？ 文書が書けなければ能力なし】

- 表3で表している通り、実社会活動で絶対必要な【四つの基本技能】を併行的に養い、「人間が言語習得する過程」に沿って【実際に使いこなせる日本語力】を養うことが、【構文式の日本語教育】だ。（表3・4参照）
- 受験者は国家試験合格後には、日本人職員と同等の業務遂行能力がなければ、人材不足を解消する人材となり得ない。そのためには、業務上必要な書類の作成や整理整頓能力が必要だ。その能力に欠かせないものが、「構文能力」ということを、受験者自身が一番自覚していることだ。即戦力になる人材育成の方法は、【構文式の日本語教育】が、絶対に不可欠だ。

表2、【マークシート式の評価】

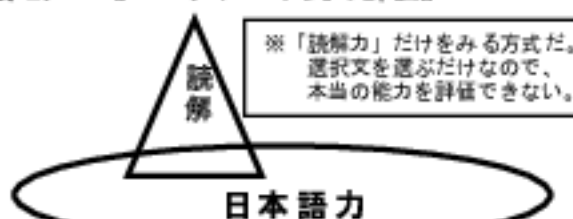
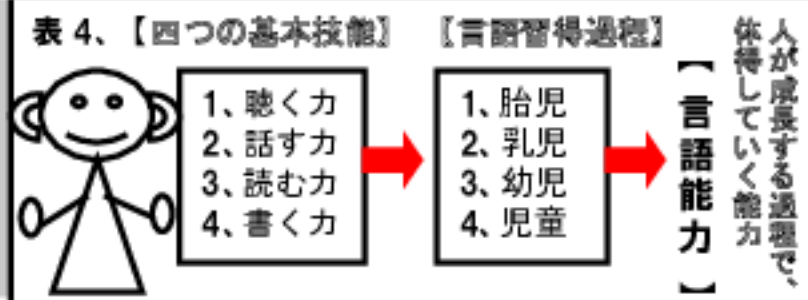


表3、【構文式の評価】（スカイプ授業併用の場合）



IV、【日本語教育の進め方は、「人間が言葉を習得するのと同じ方法」が最も教育効果が高いことを、あなたは知っていましたか？！】

- 表4は【四つの基本技能】の【言語習得過程】を分かり易く表現したものだ。特に、注目すべき点は【言語習得過程】の1、胎児～4、児童までの習得過程を【四つの基本技能】と比較してみると、重要な要素となる。〔月報〕59号参照）人間が言葉を習得する過程は、万国共通であり、基本技能の能力は1、聴く力～4、書く力の順番で習得している。このことに注目して、「日本語教育の進め方」を構築すれば、良い結果が必然的に生まれる。
- 【四つの基本技能】の順序は、「易しいものから難しいものへ」の考え方が成立する。【言語習得過程】でみると、入職直後の受験者の言語力は、「構文力」がないために、4の児童レベル内と判断できる。



- 言語教育を効果的に行うためには、【四つの基本技能】と【言語習得過程】との関係を熟慮しながら、「学習計画」を作る必要がある。このことは、教育上の根本的な考え方だ。
- 受験者が母国、並びに来日直後の集中研修で受けた日本語力は、まさしく、【言語習得過程】の4、児童レベル以内であることは間違いない。なぜならば、「構文力」がほとんどないために、言語能力が3の幼児、並びに4の児童レベルを示しているからだ。

V、【あなたは、知っていましたか？！】 【言語能力】は「言語技能」がなければ、成り立たないことを！！】

- 表5は【言語技能の種類】で、10項目の「言語技能」を出している。それぞれの能力の右側に「」で、その内容を表している。特に、「瞬時反応」ではAとBに分けて、反応の内容を「構文式」の解答で評価する必要がある。（正誤なし）は、解答が空白であることを表し、（正誤あり）とは、構文の答えが正しいか、誤りかを評価する。
- 「瞬時反応」の測定は、1問に対して1分間内で、正しい構文による解答がなければ、「可」としてはいけない。また、試験方法は情景文を読解した後に問題文を読み、構文で正しく答えることを要求することが必要だ。その結果がBの「瞬時反応」（正誤あり）の評価となる。

- 解答の構文力によって、1～9までの項目の評価を下すことができる。その結果をもって、全体の言語能力の到達度とみなせる。言語能力は、表6で表した【人間が言語習得する過程】にそって、定期的な「構文式」試験を行うことにより、受験者が持つ「言語技能」が明確に数値で表せる。
- そして、その数値を基にした総合的な数値が、受験者の【言語能力】の評価の基準となる。故に、この評価は「言語力を数値に置き換えた評価」と言える。表面的なそして、マークシート方式の試験は、「言語技能」を評価することができず、その「言語技能」すら、数値化できない。

表5 【言語技能の種類】
A、瞬時反応（正誤なし）
B、瞬時反応（正誤あり）
1、助詞能力「助詞・接続助詞」
2、語彙能力「和語・漢語など」
3、文意能力「単文・重文」
4、文脈能力「接続詞・指示詞」
5、読解能力「短文・中文・長文」
6、文字能力「漢字・外来語」
7、文体能力「です・ます・だ体」
8、構文能力「単文・重文・複文」
9、丁寧表現能力「尊敬・謙譲語」

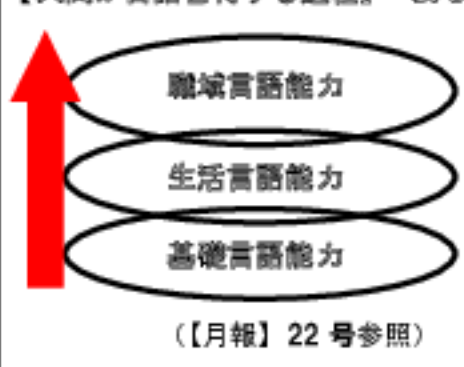
〔月報〕57号参照）

VI、【あなたは受験者の【言語能力】を、どのように把握していますか？ 「自学能力」を養うためには、定期的な【言語能力】のチェックが必要！】

- 現在受験者を受け入れている機関の多くは、受験者の【言語能力】を把握していないし、また、把握する方法を知らないために、「人任せ状態」があるのが実態だ。
- しかし、受験者の【言語能力】を知らないまま、仕事をさせることは非常に危険な状態だと考える。特に、生命に因る業務などは、「意志疎通が正しくできない状態」は、実務をも任せることができない人間と言える。

- 医療・介護職域の業務に因って最も重要なことは、「正しい意志疎通による連携業務」だ。これが不十分な場合には、職場での事故が生じる原因となる。
- これを防ぐためには、早急に受験者の言語能力を客観的に把握することが重要なことだ。そして、その言語能力に基づいた上での「自分から学ぶ姿勢を養う」即ち、「自学能力」を身につけさせることが重要だ。

【人間が言語習得する過程】 表8



現場の悩みの声！

「どうして、自学してくれないの？」

「どうしたら、現場と総務の意見が一致するの？」

あなたの施設・病院は、このような悩みを抱えていませんか？？

その原因と理由を探る！！

- 入職1年目は、外部の日本語の先生に来てもらって、週1回、日本語の学習を十分に行ったつもりだった。2年目からの受験対策指導は、現場の職員が行っている。しかし、十分に日本語教育をしたにも関わらず、職員の説明が上手く理解できないことに、初めて気づいた。その結果、専門教育が思うように進まないの、悩んでいる。
- 職員がいる時は勉強しても、目を放したり、自宅での学習は、していない状態が続いている。何度言っても、自分たちだけでは勉強をしないので、一体、どうしたら自分で勉強するようになるのだろうか、指導に困っている。

(茨城県・A施設)

- 日本語は、N2とN1を取得できているレベルだ。だが、受験対策となると、事業団教材を使って自分で勉強しようにも難しく、勉強がおろそかになっている状態が続いている。そのため、1年目と同様、外部の先生に週1回来てもらい、指導をお願いしている。だが、「専門用語・専門知識」は職員が指導している。
- 2年目からの受験対策は、具体的な指導方法が分からないために、職員も難しさを感じている。受験対策の学習には、学習意欲がなく、関心が薄いことが良く分かる。この状況を変えるためには、どうすれば良いのか、悩んでいる。

(岐阜県・S施設)

- 現場の看護師の考え方は、「母国・来日直後の日本語学習をした上で、入職しているから、日本語の学習よりは、専門用語・知識を指導しなければいけない。国家試験に合格させてから、日本語力を高めれば、それで良い」と主張している。
- だが、総務の考えは、「日本語力が足りないために、試験問題が読めない」と考えて、日本語力を高めることが必要だと言っているが、現場と総務の意見が真逆であることが実態だ。現実的にみても合格率が低いし、現場の意識を変えない限り合格は難しいと思う。(東京都・R病院)

- 【月報】で書かれているように、総務としては、国家試験合格ができない原因は、日本語能力の問題だと分かっている。しかし、現場で指導している看護師の考え方は、「専門用語・専門知識」を重要視して、一生懸命指導しているのが実態だ。
- 現場が指導している関係上、教育を任せてはいるが、合格できないことが続けば、現場の考え方を変えることが大切だと思う。だが、なかなか思うようにいっていない。他の病院はどうしているのだろうか。(熊本県・O病院)

【悩みの共通点は、これだ！！】

- 1、受験者には、日本語力の【四つの基本技能】が共通していないことだ。※ 理由は、マークシート方式は、本当の言語力が把握できない。
- 2、職員が中心に教えているが、「具体的な教え方」が分からないことだ。
- 3、日本語力がないために、「自学する能力」を持っていないことだ。
- 4、受験者の日本語力を正しく評価せずに、表面的な反応だけで、「出来ると錯覚している」ことだ。
- 5、日本語力が十分でないにも関わらず、「専門用語・知識」を中心に教えている」ことだ。

※ 【悩みの声】は、専門家の立場からすると至極当然の悩みだ。即ち、外国人に対する「基本的な対応方法」を知らない故の声と言える。悩み解決の方法は、ただ一つ、専門家に頼るべきだ。

【職員が考えるべき点】

- 1、受験者は、今までの日本語の勉強が、本当に理解できていたのか？ また、職員は客観的な「言語力の数値」を、把握しているのか？
- 2、職員自身が受験対策指導の仕方を明確に持っているのか、言葉の説明に終わっていないのか？
- 3、職員は、受験者が「自学できる能力」を養える指導力が、本当にあるのか？
- 4、職員が受験者の日本語力を、「正確に把握する方法」を知っているのか？
- 5、受験対策指導をしていて、受験者が「職員の日本語が理解できている」のか、どうか？

※ 外国人に対して言は教育を行ったことがない看護師、並びに介護士が卒直に言って、日本語力のない受験者に対して、的確な指導はできない。受験者の言語教育は、専門家に頼むべきだ。

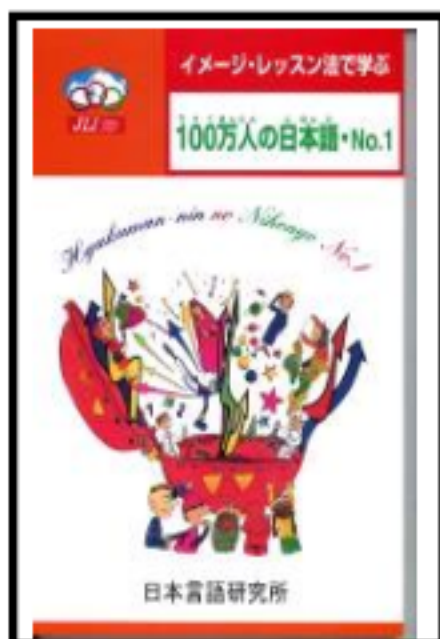
自学能力を養うための 適切な教材！！

- ① 視覚的に学べる
- ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
- ③ 漢字も類推して読める
- ④ ストーリー性があり、体系的に作られている

EPA学習支援
スカイプ・教材の無い会館
ことばの研究社
電話：086-431-3481
FAX：086-431-3482
岡山県倉敷市庄新町 9-4-12

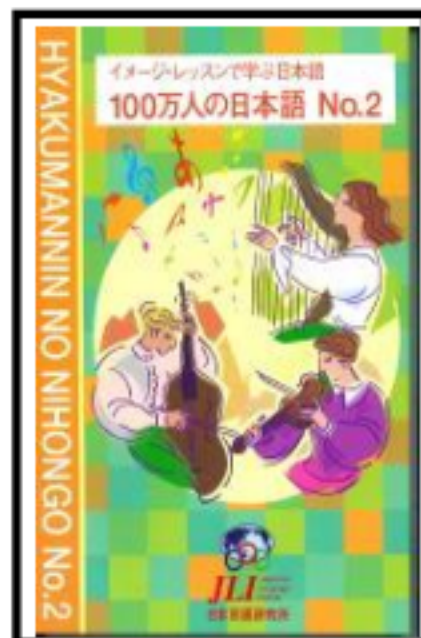
学習支援 主教材

基礎言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】
ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成となっています。(2805円)

※ 習得漢字数 310字～620字
※ 習得語彙数 520語～1560語



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】
会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語のあらゆる規則性と用法を自学できます。(2805円)

※ 習得漢字数 420字～840字
※ 習得語彙数 570語～1,710語

生活言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

日本社会に適應できる人間関係を理解して、目上の人に対する礼節を保つ表現力が身につきます。

論理的に文を組み立てた長文が書けると同時に、漢字熟語を使った要約文を書けるようになります。

仕事に関連する語彙を自分で辞書を引いて調べることができます。(3,200円)

※ 習得漢字数 850字～1,700字
※ 習得語彙数 1,110語～3,330語

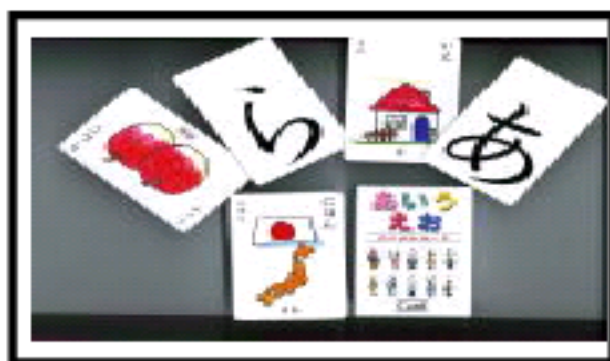
使ってみてビックリ！

教育効果の高さ

学習支援 副教材

基礎言語能力レベル

職員の手が掛からずに、
受験者だけで勉強できる教材



表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれており、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。

イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習者に最適な内容になっています。

(1,155 円)



ひらがな文字の自学に最適な教材です。字形、書き順などの練習だけでなく、全ての日本語の基礎となる「しつもとこたえ方」に絶対必要な発話方法を、身近な事例を使って学習できるようになっています。社会生活に必要な最低限の語彙も同時に習得し、定着できるように作られています。

(1,980 円)



『100万人の日本語 No.1』に沿った構成となっており、文型・成文の習得をしながら効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。

非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適。

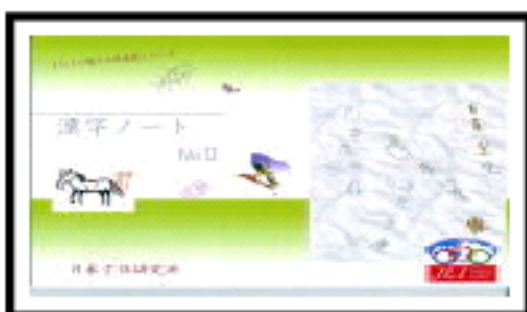
また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

生活言語能力レベル



カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは説明文と会話文が織り成されています。この場面を紹介する文は、外来語の理解とその育出し練習をしながら、練習問題によって読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

(1,496 円)



『100万人の日本語 No.2』に沿った構成となっており、漢字習得と成文練習のみならず、読解力も同様に養えるように作られています。

漢字の「へん・つくり」の付録もあって、漢字の成り立ちに対する理解ができる内容となっています。

非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適。

また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

◎ 到達度試験Aコース(独立型)

ことばの研究社

<自学能力養成型コース>

【一年目 到達度試験 初回レベル～Dレベル】

※ 【自学能力】を養うことを目的としたコースです。
言語能力は、日本人の中学2年生までの能力に達するようにプログラムされています。

※ 【自学能力】を養う教材を使用

主教材 ・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材 ・ひらがな絵かきと (瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と (構文力育成用)

・カタカナノート (説明文・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1 (基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2 (熟語漢字習得育成用)

・手渡し教材随時

【二年目 到達度試験 Eレベル～国試3レベル】

※ 日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。そのため、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文書で解答できる能力が育成できます。

※ 主教材 ・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【三年目 スカイク授業 5回(1回2時間)】

※ 日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

※ 主教材 ・専門参考書

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【指導内容】

① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導

② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導

③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書提出し、現場の指導に役立てます。】

※ 【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※ スカイク授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※ ※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一 年 目	★基礎言語能力の育成 ①日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ②1,755語の基本漢字が習得できて、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ③会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで、できるようになる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できるようになる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができるようになる。 ④簡単な業務日誌が書けるようになる。
二 年 目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的に行い、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本語力を高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えられるようになる。 ②専門用語の漢字を「類推して読解」できるようになる。 ③自学で「過去問」ができるようになる。
三 年 目	★職域言語能力の育成 ①日本語を使った「業務実践力」を行える能力を養う。 ②会議等で意見を発言し、内容把握ができる能力を養う。 ③要約力を養い、会議等で的確なメモをとれる能力を養う。 ④日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できるようになる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して読み理解できるようになる。 ③マークシートの解答ではなく文書による解答ができるようになる。

◎ 到達度試験Bコース(併用型)

< おまかせコース >

【一年目 到達度試験(初回~Dレベル)+スカイプ】

※【自学能力】を養える【到達度試験】と対面教育ができる「スカイプ授業」を併用しています。

日本人の中学2年生までの能力に達するプログラムで、特に、正しい会話力が身につけられるコースです。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材・ひらがな絵カード(瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と(構文力育成用)

・カタカナノート(説明・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1(基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2(熟語漢字習得育成用)

【二年目 到達度試験(E~国試1レベル)+スカイプ】

※日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。

スカイプ授業併用型なので、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文章で解答できるようにプログラムしています。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【三年目 到達度試験(国試2,3レベル)+スカイプ】

※日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

日本人の職員と同等に業務ができるまでの能力に達するように、プログラムしています。

また、国家試験合格後でも、同じ職場で働く意欲を養うことも目的としています。

※主教材・専門参考書

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【指導内容】

①職種に合わせた専門書の理解の仕方指導

②類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導

③要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書を提出し、現場の指導に役立てます。】

※【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※スカイプ授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一
年
目

★基礎言語能力の育成

- ①スカイプ授業を併用するために、対面学習で、適切なプロの指導が受けられる。そのために、確実な日本語力が養える。
- ②日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。
- ③1,755語の基本漢字を習得でき、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。
- ④会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。

●日本語能力を養う

- ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで到達できる。
- ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できる。
- ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができる。
- ④簡単な業務日誌が書ける。
- ⑤スカイプ授業は、受験者の表情を教師が読み取れるので、「本当に理解しているか、どうか」が判断でき、確実な言語能力がつく。

二
年
目

★生活言語能力の育成

- ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。
- ②仕事を自主的にやり、責任を持って業務を遂行する能力を養う。
- ③日本人の高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。
- ④日常会話力が支障なく使える能力を養う。

●国家試験受験能力を養う

- ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えることができる。
- ②専門用語の漢字を「類推して読み、意味理解」できる。
- ③自学で「過去問」を解ける。
- ④スカイプ授業併用型なので、問題・疑問が、その場で解決できる。

三
年
目

★職域言語能力の育成

- ①業務の実践力を養う。
- ②会議で意見を発言して内容把握でき、メモをとる能力を養う。
- ③話の内容を的確に、まとめる能力を養う。
- ④日本人社会人と同等レベルの言語能力を養う。
- ⑤スカイプ授業なので日本人感覚の「語感・語調」を、正しくプロの教師が養う。

●国家試験合格能力を養う

- ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できる。
- ②日本事情の専門知識を体系的に把握して、読み理解できる。
- ③マークシートの解答ではなく、文章による解答ができる。
- ④専門語彙と専門知識を自学できる。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】 EPA学習支援 こぼの研究社

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い、言語技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は介護分野では、国家試験合格者を **3年間連続で、80%以上の実績を誇っています。** また、看護分野でも、EPA受験者全体の合格率が10%前後に留まっているのに対して、【到達度試験参加者】の合格率は、**55%**と高い水準を保っています。

これは、**受験者全体の合格率10%の5倍の高さ**を示しており、驚異的な合格率といえます。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で社会人として働ける能力を養うことを、重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、介護施設や病院などで実践力のある要員として、育成することを目的としています。

※【到達度試験参加者】には、定期的に試験結果を「考察票」でお送り致します。「考察票」には、指導者用のために、具体的な指導方法を記しておりますので、安心してご指導頂けます。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職 域 言 語 能 力 を 養 う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生 活 言 語 能 力 を 養 う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基 礎 言 語 能 力 を 養 う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回		受験者の現状の日本語能力を観る。		